公益社団法人神奈川県社会福祉士会横浜支部
YOKOHAMA CITY
CERTIFIED SOCIAL WORKER
横浜市社会福祉士会

神奈川県
社会福祉士会横浜支部
（横浜市社会福祉士会）

設立20周年記念誌

○ 初代支部長・須田幸隆氏インタビュー

別紙１　横浜市社会福祉士会設立資料（2002 年 11 月）

別紙２　神奈川県社会福祉士会会報（2003 年１月号抜粋）

別紙３　第 16 回日本社会福祉士会全国大会資料（2008 年６月・抜粋）

別紙４　中区区民まつりの模様（2004 年 10 月）

○ 歴代支部長メッセージ

● 第2代支部長　菅野 善也（在任 2008 ～ 2012 年度）

● 第3代支部長　徳田 千春（在任 2013 ～ 2014 年度）

● 第４代支部長　中島 礼子（在任 2015 ～ 2016 年度）

● 第５代支部長　島田 朝久（在任 2017 ～ 2018 年度）

● 第6代支部長　松下 圭一（在任 2019 ～ 2020 年度）

初代支部長 須田幸隆 氏インタビュー

社会福祉士会の夜明け

古い話をしてくださいっていうから、社会福祉士になった経緯とか、社会福祉士になった当初の活動内容、当時の県士会（神奈川県社会福祉士会）の活動、横浜支部設立の経緯、設立当初の状況、その経過、それから自身の今の状況、支部に伝えたいことを話してくれって連絡があったから、そのつもりで来ました。

ただ、私も78歳になってんだよ。そんな元気じゃない。でもまだできることはやろうということで。

まず、社会福祉士及び介護福祉士法ができた（制定）のが1988年。1回目の試験が翌年、平成元年だよ。そこから数えて今年度は35回目の試験かな。

私が試験に合格したのは3回目の試験だから、1991年。登録番号は〇番だったよ。日本社会福祉士会は少し遅れてできたから、日本社会福祉士会の登録番号は〇番。

私は横浜市職員として、生活保護の仕事をずっとやってきたから、査察指導員としての受験資格があったんで、受けた。それが社会福祉士になった経緯です。

今は昔と違って査察指導員やってるとすぐ受けられるじゃなくて、養成施設に行かなきゃいけないよね。昔は経験があると受験できたということだな。

社会福祉士になった当初の活動内容なんだけど。

当時、私が3回目の試験で合格した年ぐらいだったかなあ。私は南（区役所）の保護課長で、当時はまだ日本社会福祉士会も、県士会もなかったんだよ。当初の活動っていっても、会がない。そんな状況だったんで、そこから、会を設立する活動に入っていくんだよ。

社会福祉士は、日本ソーシャルワーカー協会の社会福祉士部会に所属していた。日本ソーシャルワーカー協会は、阿部志郎さんが引っ張っていたかもしれない。それで、1991年11月30日に横浜の開港記念会館で、日本ソーシャルワーカー協会の社会福祉士部会が開かれるんだよ。そこで西澤さんっていう人が、日本社会福祉士会を作ろうという呼びかけをするんだよ。その時、横浜の中心になってたのは成田すみれさ

んたちだった。

同時に、明治学院大学の教授だった秋山稔さんが、日本社会福祉士会を作ろう、各地に支部を作ろうって全国を飛び回ってた。

で、1991年11月30日にそういう呼びかけがあって、それを受けて神奈川県では翌年の6月に10人前後の者で準備委員会を持つんです。その時、私も参加したんだけど、その中心が初代会長の伊東（裕二郎）さん。

そして、その年の1992年11月29日。任意団体で、「神奈川県社会福祉士会」を37名で設立するんだよ。場所は開港記念会館。初代会長が伊東さんで、私は会計をやってたかな。

日本社会福祉士会はまだないんだよ。そのあと、1993年1月15日だったかな。八王子で「日本社会福祉士会」が設立されるんだよ。私も八王子に行ってました。

高島（さち子）さん（後の第3代会長）はこの年から県士会に入ってくるんだ。入ってきてすぐ、研修か何かを提案して、高島時代を迎えてやっていくことになるんだけど、衝撃的だったよ。

横浜支部設立

時代が飛んで 2001年6月に県士会は社団法人化されたでしょ。なんで社団法人化したかっていうと、2000年に始まった介護保険の関係で、法人格持ってなきゃいけないっていうのがあって。これも全国に先駆けているんじゃないかな。

そして支部の話になってくる。設立するのが2002年11月17日。横浜支部を作るんだよ。

その時に私はもう県士会を離れてたんだけど、高島さんから横浜支部を作ってくれという話がもたらされたんで。

ここでひと悶着あるんだ。横浜市社会福祉士会を作るって言ったら、県支部の方が怒るんだよ。とんでもないって。でも高島さんは耐えて、神奈川県社会福祉士会横浜支部、かっこして横浜市社会福祉士会としてくれたらいい。もしかしたら逆だったかもしれない。横浜市社会福祉士会にかっこして神奈川県社会福祉士会横浜支部ってしてくれたらいいと。そんなことで折り合いが。

今もって川崎市社会福祉士会とか、相模原市社会福祉士会なんてないだろう？　横浜市だけ、横浜市社会福祉士会っていってんの。そんないきさつがあった。

で、横浜支部の設立。県士会も当時は日本社会福祉士会の支部だったわけで、支部内支部を作ろうということなんだ。でも、これも全国で神奈川が一番早かったんじゃないかな。

私は、これから県じゃなくて市町村が主体になっていかなきゃいけない、市町村の社会福祉士会を作らなくちゃいけないって言ってたから、横浜支部を作ったんだよ。

それで、横浜市社会福祉士会設立の時に開港記念会館に80名以上の人が来た。記念公演は朋（重症心身障害者通所施設）の日浦（美智江）さん。何遍も打ち合わせに行って。

県士会の記念講演（1992年）は阿部志郎さんなんだよ。日本ソーシャルワーカー協会に関わっていた、横須賀（基督教社会館）の阿部志郎さん。

横浜支部の時は日浦さんにお願いに行った。初代支部長は私がやりました。

そうそう、ロゴマークがあるんだよ。あのロゴマークにも、私にはすごい思い入れがあって。亡くなっちゃった高橋邦彰さん。千葉に住んでいる人で、難病なんだけど。2002年11月17日に横浜支部が設立されたでしょ。その少し前に高橋さんに、横浜市社会福祉士会ができるので、ロゴマークを作ってほしいって頼むんだよ。錨のマークとか、横浜だからマリンブルーでとか注文を出すんだよ。こういうイメージのものを作ってほしいと。

で、あれができるんだ。彼はあれが遺作だな。12月1日ぐらいに亡くなったんだ。倒れたのが 11 月20日過ぎ。横浜支部設立直後だよ。難病だったから。でもいいものを作ったんです。だから、私にとってあのロゴはすごく大事なんだよね。

そういうことで横浜支部ができたということだ。設立当初の状況。

大盛況だった全国大会での成年後見劇

その後の経過で一番思い出に残っていること。年月が少し過ぎて2008年6月7日(～8日)にパシフィコ横浜で全国大会やるっていうので、ここで横浜支部は活躍するわけです。(会長が)高島さんから4代目の本多さんに移る頃だった。

全国大会を横浜でやるっていうことで、高島さんが、総務の関係は成田さんにやってもらう、企画の面を支えてくれって言ってきたんで、じゃあやるよと。その代わり、企画の中で、講談師の神田織音(おりね)さんの講談を入れると。

それから特別分科会では、横浜支部が取り組んでいた劇をやるということで、全国大会をやるんだよ。

実は全国大会は、横浜でやったのが10何回目かなんだ(第16回)。神奈川はいつでもできると言われていたんだけど、その前に2回目ぐらいの全国大会が静岡と神奈川と両県でやったんだ。私は静岡と神奈川でやった時も出てるんだけど、熱海の赤根崎っていうところでやるの。ちょうど静岡と神奈川の間ぐらいだから。だから全国大会は(神奈川で)2回やったんだよね。

で、パシフィコ横浜の全国大会 (社会福祉士学会)は、横浜支部が中心になってやったんだ。特に特別分科会。学会だから、劇をやるなんていうのはとんでもない発想だけど、劇やるよと。中には、劇やるとなると、熱を込めてやる人が出てくるんだよ。

成年後見劇をやったんです。すごかった。特別分科会は会場がいっぱいになって立ち見も出た。たぶん、全国大会で劇を演じたっていうのは、それまでもこれからもないんじゃないかな。そこに残ってる(別紙3)。

劇というのは、実はその全国大会で始めたんじゃなくて、その前に栄区のケアプラザでやったんだよね、それが始まりなんです。ケアプラザで劇をやろうということになって。

介護保険ができた時に、全国あちこちで介護保険のことを説明する劇をやるんですよ。特に新潟が中心になって。見に行ったことあるんだよ、魚沼のほう。

それがあったんで、うちは成年後見で劇やろうということで、栄でやった。Oさんたちが中心で。そういうのを全国大会に持ち込んだんだ。

東日本大震災がきっかけとなった法人後見設立

社会福祉士会の思い出というともう一つ、2011 年3月11日の東日本大震災。

横浜市は3月19日に磯子区の滝頭に一時避難所を設けたので、私は翌日の3月20日に職員OBとして行くんです。生活相談をやらせて欲しいと。横浜市のほうも、現役の職員では手が回らないからぜひやってほしいという話になって、私が元・横浜市福祉職の知ってるメンバーに声をかけて集まるんだけど、それだけじゃ長期間できないよということで、じゃあ県士会として生活相談をやってもらおうということで、正式に委託を受ける。

それが、私にはとても大きなことだったかな。それがきっかけで今の法人後見に結びついてくるんだ。

避難所の支援は、滝頭ばかりじゃなくて、県が武道館に避難所を作って、そっちにも集まってね。横浜支部じゃない人たちがそっちへ集まったかな。だから避難所が二つあったんだよ。

避難所に集まってきた人の中から、避難所での生活相談は3月から7月までやるんだけど、いずれ終わるから、そしたら別のことをやろう、せっかくみんな集まったんだからということになって。法人後見、成年後見でNPOを作るということで2011年10月に「よこはま成年後見つばさ」という法人後見の団体を作りあげた。

家庭裁判所(家裁)の信頼はすごいんだよ。その時から、私たちの力を認めててくれたかもしれない。でも、横浜で法人後見は、社協はやってたけど、その他にNPOでやってる団体はなかったんです。そこで1年間1件、どういうやり方をやるのか監督人をつけて様子を見ると。宮下京介さんという弁護士が監督について。

1年間一生懸命やったよ。1年経って宮下さんが「申し分ない」と家裁に言って、監督人を辞任してくれて。一本立ちするんだ。そこからは法人後見受任がどんどん進んでいく。

今も続々と「つばさ」には行政とか福祉施設とか病院から相談が来る。特に障害の関係の人から法人後

見がいいという評判がたって、行列ができてるんだ。「つばさ」は待ち状態。

そして2、3年ぐらい前になるかな。もう一つ同じような団体作りゃいいじゃんって話になって。作れって言ったのは私なんだけど。もうこれ以上要望に応じきれないというんだったら、同じような団体作ろうということで、「つぼみ」ができるの。

「つぼみ」ができると、家裁は「つばさ」の時より信頼度は高くて。「つばさ」の関係の人たちが作った団体だから、監督人もつけません、1年に1件とかそんなこと言いませんということで、抜群の信頼度。

それで今8件だけどね。こっちも体制が追いつかないんだよ。受任していく体制を組むのも追いつかなくて、相談に応じ切れない。今でも結構ここに相談が来る。「つばさ」のほうを見てると、「つばさ」も誰でも気軽に受任してもらえるなんて状況じゃないんです。絞りに絞ってんだよ。

そんなことで、後見「つぼみ」。私が言ったもんだから、じゃ須田さん作ってよっていうことになって。私は「つばさ」の責任者を譲って、もう年齢が年齢だし無理なんだって話をしたんだけど、「つぼみ」で予定してた人に代表になってもらえなくて、ここまで来て止めるわけにはいかない。誰もいないっていうんだったら、私がやるから進めていけばいい。ということで、ここの活動が始まっていくわけ。

ですが、私も動けないので、最初は私が代表理事ということで登録登記はしたけど、1年で今の中田（敏雄）さんに引き継いで。私も理事でまだ残ってるけど、代表理事は中田さんになってもらって、今があるということ。私自身の今の状況はそんなところ。

ミクロとマクロ、さらに地域に働きかけるメゾの領域

最後になるけど、支部に伝えたいこと。

これは私がいつも言うことだけど、活動というのは、ミクロの領域、個別事例の支援とか、ソーシャルワークとか課題解決とか、ミクロの領域だけやってたって駄目なんだ。そこに取り組んだら、それを一般化して普遍化して、マクロの領域。マクロの領域ってのは社会全体に発信し、アピールしていくソーシャルアクションといってもいいかな。マクロの領域も取り組まなきゃいけないんだよ。

今はミクロとマクロだけじゃなくて、その中間にメゾの領域だってある。メゾの領域っていうのは、地域への働きかけとか地域との連携とかそういうことをやらなくちゃいけないんだ。社会福祉士会も同じじゃないかと思う。

「つばさ」は、ミクロ、マクロ、メゾやってますよ。「つぼみ」はちっちゃい。メゾの領域は「つばさ」に任せて。ミクロとマクロは結構やってんだよ。マクロは結構提案してる。何を提案してるかって今一番してるのが、評価。

法人後見実施団体に自己評価をやるべきだとアピールしているので、厚生労働省にも話して、実際に「つぼみ」はもう評価票作ってやったんです。

その話を今日午前中に東洋英和（女学院大学）の石渡（和実）先生に話して「コメントしてください」って頼んだばかりだよ。それができたら、一冊にして、厚生労働省、家裁、行政に持って行きたいということで、そういったこともマクロの領域の話になるだろうと。

そして、法人後見をやってくださいって促すこともやってる。

例えば、日本で最大の社会福祉法人っていうと済生会なんだよ。そこの炭谷（茂）理事長は、30年くらい前から知っているんだけど、厚生労働省の保護課長やってたことがある。社会・援護局長もやってたし。そういう人と知っていたので、済生会の相談室長のK氏と知り合いになったから、彼と一緒に理事長に会いに行って、済生会としても法人後見をやってくださいって話をしてきました。

それと、研修を結構やってるんだよ。例えば成年後見制度の概要という研修はもうあんまりやらない。話してくれという依頼があればそれに応えた形でやるけど、今は研修の依頼があると、もっぱらテーマは法人後見と申立て支援。ここに焦点を当てた研修をやってます。

A区役所の職員研修でもやったからね。T区とかでもやってるんじゃないかな。

なんでそんなこと言ってるかというと、今、WAM（福祉医療機構）から助成金をもらってやってる中に、

研修講師派遣で研修やるっていうのがあるから、別にお金は貰うつもりはないんだ。

11月20日、横浜市障害児者を守る会連盟主催の福祉大会があったんだ。そこに講師に呼ばれて喋ってきたんです。親亡き後のことを皆心配してるから。その時にお金を頂いた。

区の職員研修はお金を頂くつもりない、WAM助成事業の一環としてやるから、研修の機会を与えてくれればやります。

話はだいたいそんなとこかな。

ここに、当時のもの(資料・写真)を用意している。

横浜支部を作る時に、こんな設立宣言を書いた(別紙1)。ここに中田宏(当時横浜市長)のやつ(祝電)ね。当日の設立総会の時、こんな内容でやりましたよと。

(県士会設立)10年の時にもちょっとしたものがあるんだけど(別紙2)、この時にこの10年間の話をしてんだよ。これが当時参加メンバー。ここに私もいるんだけど。初代の会長が伊東(裕二郎)さんで、2代目が金井(守)さん。3代目が高島(さち子)さんです。高島さんの後に本多(洋実)さん。そのあとが山下(康)さんで、今の人(隅河内現会長)がつながってんだよ。

(栄区)中野ケアプラザでやった劇団かもめ座(2005年9月28日付神奈川新聞記事)。

社会福祉士学会神奈川大会、パシフィコ(別紙3)。

横浜支部が出た中区のイベント(別紙4)。この時に風車(かざぐるま)作って。「つばさ」は今もやってるよ。

【聞き手】ある日、須田支部長から「区民祭り出るから」っていう話になって。で風車を作るっていう話になって。でもどうして風車だったんでしょう。すごく人気ですけど。

「つばさ」でやってるのは、子ども達に作り方を教えるのを、被後見人さんとか被保佐人さんがやってるんだよ。それは達成感。被保佐人さん、被後見人さん、もちろんできる人にやってもらうんだけど、自分でも役立つんだっていうことは少ないでしょう?そういう場を作ろうということ。

未知の世界へ踏み出す行動力と気持ち

【聞き手】そもそも、なぜ行政の人が社会福祉士(資格)を取るんでしょうか。

深い意味はなくて。さっき言ったように査察指導員で受験資格がある、新しく制度ができたということで、じゃあ受験しようってことかな。

【聞き手】行政の人だと枠から出たがらない、あえて民間の人と協働しないイメージがあるんですけど、枠

を超えるとかはみ出すとかそういう意識もなく、といった感じですか？

いや、枠は踏み外してるのかもしれない。だって、なんで後見人になる、後見人の仕事をやるかっていうと、最初、ケースワーカーから始めて 20年。定年退職を迎えて、原点回帰だという思いで、その仕事が後見人だったんですよ。現役の時からも後見人やってたから、人事に許可もらって。

横浜市（役所）で現役の人が後見人になった第１号じゃないかな。親族、家族の関係で、たまたま後見人やった人もいたかもしれない。第三者が後見人として現役でやり始めたのは私ですよ。ちゃんと手続きとって。人事もやっていいということで、休暇も与えるとか良い返事を出してくれた。むしろ今は後退しちゃってるんじゃないかな。

それではみ出してるっていうのは、社会福祉士になって、団体を立ち上げることに関わってきたんだ。県士会とか横浜市社会福祉士会とか、立ち上げることに力を尽くしてきた。

【聞き手】**あえて未知の世界に踏み出そうっていう行動力と気持ちですね。**

法人後見やり始めたのは同じような流れ。法人後見やろうって、実際の言い出しっぺは私じゃないんだよ。私もその時に個人後見やってたけど、篠崎(美代子)さんとか熊谷（美江子）さんが社会福祉士会「ぱあとなあ」で個人後見やってたんだよ。そのメンバー達が、これからは法人後見だって言い始めて、代表やってくれって私に振ってきたわけだ。それには団体、ＮＰＯ法人作らなきゃできないじゃんっていうことで作ることから始めた。

「つばさ」は認定ＮＰＯ法人だけどさらに大きくなって、計画相談もやってるのよ。横浜市の元職員でＷさんが、「つばさ」で計画相談やりたいって言い出したので、計画相談と法人後見は相性がいいと思うからやろうということで、私もバックアップして、今４人でやってる。4人は力あるよ。すごいメンバーが揃ってる。

【聞き手】**「つばさ」っていう名前の由来はあるんですか？**

「つばさ」というのはどうして付けたか。大空を飛び回るということなんだろうな。

【聞き手】**須田さんが付けたんですか？**

違う人の発想。計画相談室の「ウイング」は私が付けたかな。「つばさ」から単に「ウイング」。

【聞き手】**「つぼみ」っていう名前が「つばさ」に似ているのは関係あるのですか？**

ここはＴさん（スタッフ）の発想かな。「つ」のつくものでどんなものがありますか、そしたら「つぼみ」っていうのが出てきた。じゃあ「後見つぼみ」にしようって。

「つぼみ」の前に、「つばさ」で理事やって、法人後見のやり方を学んでった西田（ちゆき）さんと根岸（満恵）さんが、鶴見区で「つなぐ」を作った。「つぼみ」よりも「つなぐ」が早かった。でもみんな「つばさ」で学んだんだ。「つばさ」で法人後見のやり方を学んで、「つなぐ」は障害者に特化してる。じゃあ「つばさ」「つなぐ」「つぼみ」だなということで。

それから、「つばさ」グループの中に市民後見人の「和の環」（わのわ）っていうのがある。法人自体が「つばさ」よりも前にできてるかな。でも、なかなか家裁が選任してくれなかった。その「和の環」の理事長が、「つばさ」で担当者として経験を積んだんだよ。それが家裁で高く評価された。それで10年以上かかったけどやっと受任ができるようになった。

だから四つの団体が「つばさ」のグループ。

【聞き手】**「和の環」はどの辺のエリアなんですか？**

エリアは横浜市内だと思うけど。

誰もが尊厳を守られる権利擁護支援

西田さんと根岸さんが作ったのが「つなぐ」。障害に完璧に特化した。

だけど考え方は少しずつ違ってて、「つばさ」「つぼみ」は、私が責任者やってたこともあるので、資力

の乏しい人を中心に考えている。というのは、成年後見制度って目的は何っていう時に、財産管理の制度だって言われてきたことに異を唱えてたから、「じゃあ財産のない人は使えないの？　関係ないでしょ」って最初から言ってきたから。

二つの法人の基本理念も、資力に乏しい人を意識して作ってんだけど。「つばさ」の方は「誰にも等しく権利を」にしたかな。「等しく」っていうのは二つ意味を込めてて、一つは「障害がある人もない人も、障害で判断能力が不十分な人も十分な人も等しく」というのと、もう一つは「財産のある人もない人も等しく」っていうのをかけてるんです。

「つぼみ」の法人理念は「誰もが尊厳を守られる権利擁護支援」。権利擁護に「支援」って加えたのは、国が言い始めたから。

権利擁護支援は成年後見制度だけじゃない。だって、国連の障害者権利条約で9月9日に初めて日本政府は（権利委員会から）勧告を受けたじゃない。あれに基づいて制度の改善とか取組み始まったけどね。勧告に応えられるような形にしていくって思うんだけど、勧告では代理代行の成年後見制度を廃止して、支援つき意思決定支援制度にしてくださいってなってんじゃないかな、（勧告の）12条のところで。

そうすると成年後見制度は、国連が言うように全面的に廃止するようなことにはしないと思うけど、（今の3類型を）1類型にすると言ってるよね。新井誠さんという人が主張をしているからね。多分そうなっていくんだと思う。

それから特別代理人制度を入れるんじゃないかな。特別代理人制度というのは、成年後見制度を使わなくても必要な時に特別代理人を立てると、終了すればおしまいになる。今の制度は一旦始まると亡くなるまでやってないといけないから。

そういう議論を今盛んにやってるんですよ。民法改正も打ち出されてる。2026年頃かな。

21世紀は社会福祉士の時代

【聞き手】ロゴマークを作られた高橋さんとはどうしてご縁が？

ネット上に、日本コンピューター株式会社が作っている福祉相談室っていうのがあるんです。その相談室に高橋さんから相談が入ってきたかな。「須田さん、私と同じ病気ですか」って言ってきて、そうだよっていう話になって、その人はコンピュータグラフィック、ホームページとか作るの得意だったんだ。で、世の中に発信していこうっていう話になって、彼と組んでね。

20世紀から21世紀になる時に「インターネット博覧会」が開かれたんだ。そこに「21世紀は社会福祉士の時代」っていうタイトルを掲げて、私達がネットで

発信し始めたんだよ。それが評価されて。総務省が主催で、竹中平蔵が大臣やってて、世紀またぎでやって、社会貢献賞とか賞とったのは大企業ばかり。富士通とかトヨタとか東京都とか。その中に私たちがひょこっと入ってる。それが wefare-net21（ウェルフェアネット21）。そういうのをネット上に作って発信してくれたのが高橋くんなんだ。私たちが大企業の中に混ざってたんです。その表彰式の時に、作家の堺屋太一、なんか長官（経済企画庁長官）やってたでしょ。堺屋太一が来て、賞状とか盾とかもらったよ。

そんなことを一緒にやってた人が、横浜市社会福祉士会のロゴマークを作ってすぐ亡くなっちゃった。私にとってはすごいつながりの人だった。

今見てもうまくできてんじゃない？　そのロゴマーク。私が注文出したら、こういう風に作ってきたのね。「横浜市社会福祉士会」が大きくて、「支部」がちっちゃく書いてある。

【聞き手】**ウェルフェアネット21ってホームページも作られましたもんね。ホームページの中に、色んな人が寄稿してたページがありましたね。**

それで、横浜支部の設立総会の時、私は菅野さん（後の第2代支部長）に呼ばれて行って、連絡会ができたと記憶しているんです。レセプションか何かで、色んな区から来てるだろうから手を上げてって言われた記憶があるんですけど。区の連絡会っていうのはそもそも18区に作ろうっていう構想だったんですか？

18区には難しいから地区別じゃないかな。北部とか西部とか南部とかね。

【聞き手】**あの時も、これからは県とか市とかじゃなくて、もっと地元にっていうお話があったように記憶してるんですよ。まだ港北（区連絡会）やってますけど。**

港北はずっと続いてるね。

【聞き手】**最初3人でした。さて「つぼみ」ができましたが、今後の展開はありますか。**

相談っていうか、ニーズに追っ付いていかないよ、こちらの準備が。

複合化の進む問題とこれからの展望

【聞き手】**相談の内容が、時代によって変化はあると思うんですけど、最近こんな相談が増えてきてるとか傾向ってありますか。**

一つはさっき言った、親亡き後ということで、障害者の、親達側の相談があるでしょ。

それから、これも当たり前なんだけど、高齢化が進んでるから親御さんが80代になってきて、今までは自分で障害のあるお子さんをみてきたけど、もう難しいと。この先引き継いで欲しいと。障害者の親亡き後のことと同じかも知れないけど、そういう相談が非常に多い。

ただ中には、障害のある子からSOSが出てくるんです。親見てたらお父さんが変だなって。認知症が進んでる。

【聞き手】**問題が複合化してるというか、高齢・障害ということですね。**

他に焦点当ててるのは、申立て支援なんです。

申立て支援は難しいだろうと思うけど。一部、地域包括支援センターで、私達と組んでやってくれてるところあるけど、ごくわずか。ほとんどは繋いでるだけ。たらい回し。

例えば、A区で、なんで職員研修やったかっていうと。父親が80超えて、障害のある子どもがグループホームにいる。父親はもうこれ以上できない、成年後見制度を使いたいということで、A区役所に相談に行った。A区は、横浜市社協、中核機関のよこはま成年後見推進センターを紹介するんだよ。で、お父さんは市社協の推進センターに行くわけ。そこで「こういう書類が必要だからこれを書いて家裁に申立てをしてください」。それ止まり。

で、お父さんは書類をもらって、どうしたらいいかわかんないから、またA区役所へ相談に行くんだ。そこで「つばさ」を聞いたお父さんは「つばさ」に電話して。「つばさ」は「申し訳ないけど今は手いっぱいで、今度、菊名に同じような団体できましたから「つ

ぼみ」を紹介します」と。それで、お父さんがここに来るわけ。

そんなことで、申立て支援をしっかりやって、親族も親も審判までたどり着いて。そういうのがないと、ぐるぐる回るわけ。だから、受け止めて欲しいなって。

成年後見の相談機関として位置づけられてるのは、区役所の高齢、障害担当。それから、市社協と区社協と地域包括支援センターと基幹相談支援センター。これが相談機関として位置づけられてるんだから、そこではちゃんと申立て支援をやって、制度利用まで結びつけてほしいって、そういうのを今まとめてるところ。

地域包括にしても基幹相談にしても、法人受任をするところじゃないから、私達と協力すれば、申立て支援は地域包括でやり、受任は私達がやる。ここを連携取って進めていけばできるんじゃないかって。それが一番望ましいと訴えてる。「生活と福祉」（専門誌）の最近の号で、成年後見のこと取り上げてるよ。

さっき、申立て支援を相談機関ができるようにならなくちゃいけないって言ったけど、資力に乏しい人は法テラスを上手に使えば。補助、保佐で資力のある人は普通に弁護士、司法書士に頼めばいいんだよ。代理人申立てまで考えるとすれば。

じゃあ、お金がない人どうすんのよ。弁護士頼めないじゃない。その時に法テラスがあるわけ。法テラスを使って、法人後見をやる「つばさ」や「つぼみ」を上手に使うというのがいいと思う。

【聞き手】去年、一昨年と、港北区ではリアルに会員とお会いできなかった。でも、いつの間にかZoom とかオンラインが浸透。皆さん最初はできないって言うけど、慣れてきますね。

今日も石渡先生と10時から11時までZoom やったんだよ。「つぼみ」は役員会はなくて、出て来れる人が事務所で集まるけど、難しい人はZoom。私はZoom参加になっちゃう。

【聞き手】そんな中で足を運んでくださり、ありがとうございました。

ご苦労様でした。

〇インタビュー
実施日：2022年12月6日
場　所：NPO 法人後見つぼみ事務所
（横浜市港北区内）

〇聞き手
松下圭一（第6代支部長）、
江原顕（第7代支部長）（港北区連絡会）

別紙1-1　横浜市社会福祉士会設立資料（2002年11月）

社団法人神奈川県社会福祉士会横浜支部　（横浜市社会福祉士会）設立

2002年11月17日（日）、横浜市開港記念会館に80名を越える社会福祉士が結集し、社団法人神奈川県社会福祉士会 横浜支部（横浜市社会福祉士会）の設立を宣言した。来賓として、横浜市福祉局長等多数の方が出席された。また、横浜市長からは祝電が寄せられた。

横浜市社会福祉士会の設立おめでとうございます。
今後とも、福祉のスペシャリストとして、　市民の相談・助言やサービスの調整を通じて、地域福祉の向上にますます寄与されんことを期待します。

横浜市長　中田　宏

＜設立宣言＞

神奈川県社会福祉士会は、10年前の1992年11月29日に、社会福祉士数十名で発足致しました。その後、会員1000名を越える大規模な組織に発展し、2001年6月には、全国で初めて社団法人化を行うなど、着実にその歩みを進めてきました。

一方、社会福祉の状況は時代背景に応じて基礎構造改革が進み、社会福祉サービスが措置から契約に変わる中で、意思、判断能力の不十分な人々への支援など地域に根ざしたよりきめの細かな福祉援助が急務となっています。このような市民ニーズに応えるために、私達、横浜市在住（在勤）の社会福祉士有志は、社団法人神奈川県社会福祉士会横浜支部設立準備委員会を組織し、横浜支部設立の準備を重ねてきましたが、本日、ようやくここに、横浜支部設立総会を開催する運びとなりました。

さて、次の一文は、社団法人日本社会福祉士会も倫理綱領として採択したソーシャルワーカーの倫理綱領の前文の一部です。『われわれソーシャルワーカーは、平和擁護、個人の尊厳、民主主義という人類普遍の原理にのっとり、福祉専門職の知識、技術と価値観により、社会福祉の向上とクライエントの自己実現を目ざす専門職であることを言明する。われわれは、社会の進歩発展による社会変動が、ともすれば人間疎外をもたらすことに着目する時、この専門職が福祉社会の維持、推進に不可欠の制度であることを自覚するとともに、専門職の職責について一般社会の理解を深め、その啓発につとめる。
われわれは、ソーシャルワーカーの知識、技術の専門性と倫理性の維持、向上が専門職の職責であるだけでなく、クライエントは勿論、社会全体の利益に密接に関連していることに鑑み、本綱領を制定しそれに賛同する者によって専門職団体を組織する。』
倫理綱領は、限りなく普遍的で、ソーシャルワーカーとしての行動の基準です。この倫理綱領を土台にし、地域福祉の推進とそれを支える社会福祉士の専門性及び地位の向上のためには、横浜市内の社会福祉士が力を合わせる必要があります。　そこで、本日ここ文明開化の発祥の地、横浜市開港記念会館に結集した横浜市内の社会福祉士の総意を持って、「社団法人神奈川県社会福祉士会横浜支部（横浜市社会福祉士会）」設立を宣言します。

2002年11月17日
神奈川県社会福祉士会横浜支部準備委員会

別紙1-2　横浜市社会福祉士会設立資料（2002 年 11 月）

社団法人神奈川県社会福祉士会横浜支部

（横浜市社会福祉士会）設立総会次第

日時：2002 年 11 月 17 日午後 1 時 00 分～
場所：横浜市開港記念会館

第１部　記念講演　　司会　須田幸隆

講師プロフィール紹介
講師　　日浦美智江さん
　　社会福祉法人訪問の家理事長
演題　　季節のいのち・人間のいのち
　　～訪問の家「朋」と歩んだ１８年～

第２部　設立総会　　司会　佐々美弥子

開会の辞　　司会　佐々美弥子
挨拶　　社団法人神奈川県社会福祉士会々長　高島さち子

来賓挨拶　　横浜市福祉局々長　田中克子氏
来賓挨拶　　横浜市社会福祉協議会常務理事　鈴木紀雄氏
来賓挨拶　　横浜市民生委員・児童委員協議会々長　重田綱雄氏
来賓挨拶　　横浜弁護士会々長　池田忠正氏
来賓紹介　　横浜弁護士会高齢者と障害者の権利に関する委員会委員長　輿石英雄氏
来賓紹介　　社団法人成年後見センター・リーガルサポート
　　神奈川支部　支部長　酒井量三氏
来賓紹介　　横浜市福祉サービス協会常務理事　堀江昭正氏
来賓紹介　　横浜市身体障害者連合会々長　原　孝夫氏

祝電紹介

議　題

１．議長選出		
２．経過報告並びに設立の提案	設立準備委員会委員長	須田幸隆
３．設立宣言	設立準備委員会委員	西田ちゆき
４．規約（案）	設立準備委員会委員	八木克賢
５．２００２年度事業計画（案）	設立準備委員会副委員長	上野幸三
６．２００２年度予算（案）	設立準備委員会委員	菅野善也
７．役員選出		
役員就任挨拶		

閉会の辞　　司会　佐々美弥子

別紙2-1　神奈川県社会福祉士会会報（2003 年1月号抜粋）

H14. 12. 8（日）県社会福祉会館

（社）神奈川県社会福祉士会設立 10周年記念の集い開催！

日本社会事業大学　大橋 謙策教授による記念講演

感謝状を受けた金井 守前会長

神奈川県社会福祉士会が、昨年（2002年）11月29日で設立10周年を迎え、これまでの10年の歩みを記念して、12月８日に県社会福祉会館にて記念の集いを開催しました。午前の部では社団法人日本社会福祉士会会長の土師 寿三氏をはじめ、多くの来賓の方からお祝いの挨拶をいただき、その後県士会の設立当初より、会の発展に尽力を尽くしていただいた伊東 裕二郎氏・金井 守氏・荒井 敬八氏・須田 幸隆氏の４名に、感謝状の授与が行われました。また、日本社会事業大学の大橋 謙策教授より記念講演にて、これからの社会福祉士がもっと地域福祉計画等に参画していくよう、コミュニティソーシャルワークの展望をお話しいただきました。さらに午後の部では実践研究発表大会を行い、６名の会員より発表があり、今後の社会福祉士会の更なる発展を共有し合い、無事終了しました。

そこで今回、表彰を受けた４名より（金井氏は巻頭言に記載）一言いただきました。

発表者の皆様ご苦労さまでした！

研究発表講師 大溝 茂先生

生活者としての共感と連帯を

伊東　裕二郎　（初代　会長）

去る12月８日「神奈川県社会福祉士会10周年記念の集い」が開催され、私を含め４名の方が、会設立の草創期において、会の基礎作りと向上のために尽くしたということで感謝状をいただきました。

この10年間社会福祉制度の大きな変革のなかにあって、会が力強い歩みを続けることができたのは、現在すでに退任されている多くの役員の方々が手弁当で活動に参加され、それぞれの得意分野でその才能を生かして、会の発展のために尽くされたことと、当日一緒に表彰された３名の方々の活躍と支援・協力があった賜物であり、その歩みは「創立10周年記念の集い」の資料に記載の通りであります。

社会福祉士は実践の現場に身を置く仲間が多く、社会の政治経済の動向にも常に深い関心を寄せられる方々であるだけに、社会の変化の激しい時代にあって『時流に流される危険と向き合って生きる』ことも多いのではないかと思います。そんな時に私たちを支えてくれるのは、地域社会のなかで生活障害を抱えながらも懸命に生きておられる人々と、共感と連帯の絆をもって生きることではないかと思います。

また、社会福祉の世界でも高い専門性が求められることから、将来職業的専門家集団が生まれてくるものと思いますが、そんな中にあっても生活の現場のなかにあるアマチュアリズムを大切にしながら、地域のなかの一生活者として、一般市民の方々と共同社会（コミュニティ）の形成のため、共に働いて参りたいと願っています。

はや10年、されど10年

荒井　敬八　（初代　副会長）

昭和62年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定されて15年、第1号社会福祉士が誕生して13年、神奈川県社会福祉士会が設立されて10年。県士会設立後翌年に日本社会福祉士会が創設され、３年後に法人化され、社団法人日本社会福祉士会神奈川県支部として位置づけられました。２年前には神奈川県社会福祉士会も社団

別紙2-2　神奈川県社会福祉士会会報（2003年1月号抜粋）

法人となり、公益法人として社会的に認知され、今日に至る経緯に関わってきた者の一人として、これまでの10年は「はや10年、されど10年」という思いで感慨無量です。

会員37名でスタートした県社会福祉士会も1,000名を超える会員数に発展し、社団法人格を全国に先駆けて獲得して、わが国の社会福祉基礎構造改革と称される「社会福祉法」の実践に寄与する事業（介護保険、成年後見、地域福祉権利擁護など）の人材の育成・派遣を通じて「社会福祉士」の存在と必要性が、やっと社会的に認知されはじめてきました。

難関な資格試験をパスして資格を得ても「名称独占」であって、「社会福祉士」はジェネリックな資格なのだと理解し、スペシャリストとしての分野を開拓するため、地道に研鑽に励んだ成果が今日の社会的に認知されてきた源泉だと思います。

私ごとで恐縮ですが、ある団体から「第三者評価委員」の委嘱を受けましたが、委嘱規定に「一人は社会福祉士であること」が規定されていました。これまで各種委員会等の委嘱を受けてきましたが、特定化された規定に基づくものは初めての経験です。「やっとここまできたか」と感じました。長い道のりでした。

今回の設立10周年の集いの記念講演で、大橋謙策先生が社会福祉士のソーシャルワーカー倫理綱領の実践について、その業務の中でどの様に生かされているかについて叱咤激励がありました。被雇用者としての限界から二律背反に悩みながら、業務を遂行し続けてきたのが実情でしょう。しかし、新しい社会福祉理念の「利用者主体・自立生活支援・総合性の尊重」等個別的ケアマネジメントが重要な位置づけになった今こそ、ソーシャルワーカー倫理綱領に基づく社会福祉士の専門性が期待される時代が到来したのです。

この度、感謝状を頂きましたが、我々を支えて頂いた大勢の会員諸氏に改めてお礼を申し上げるとともに、会の益々の発展に微力ではありますが尽力したいと存じます。

手弁当での貢献に感謝

須田　幸隆　（初代　副会長）

神奈川県社会福祉士会が設立されてから10年になりました。この間、会員が1,000名を越え、全国で初めて社団法人化される等、設立当時を思うと感無量です。10周年記念式典の席上で、私のような者まで設立の功労者に加えていただき、恐縮至極、厚顔の至りでした。　私は神奈川県社会福祉士会設立準備委員会の中で、会計を担当していたのですが、設立資金は皆無でした。そのため、準備委員のメンバーには、交通費を自弁してもらっただけではなく、設立に関わる経費も相当負担していただきました。メンバーの好意に甘え、今もってそれを清算しておりません。手弁当で貢献していただいたと言えば聞こえはいいのですが、この10年間、内心忸怩たる思いでした。遅ればせながら、この場をお借りしてお詫びしておきたいと思います。

10年経って、私ははからずも今度は横浜市社会福祉士会の設立に関わりました。支部内支部の誕生です。今度は県士会の全面的なバックアップがありましたので、10年前とは違い設立資金には心配ありませんでした。社会福祉士会の二度の立ち上げの役目は終えました。これからはしっかりと基盤整備をし、若い社会福祉士のメンバーが困らないようにして、バトンタッチしていきたいと思っています。

神奈川から、横浜から愛を込めて

一九世紀半ばに黒船来航で開かれた我が国、その玄関口となった横浜は、
今も進取の気風と開放的な風土の残るところです。
一九世紀から二〇世紀へ、二〇世紀から二一世紀へも
神奈川から、横浜から愛を込めて。
二一世紀は社会福祉士の時代との思いを込めて。

社団法人神奈川県社会福祉士会　会長　高島さち子

二〇〇八年 第十六回 日本社会福祉士会全国大会

社会福祉士学会 神奈川大会

2008年6月7日(土)～8日(日)

パシフィコ横浜会議センター

主催：社団法人 日本社会福祉士会
　　第16回日本社会福祉士会全国大会実行員会
担当：社団法人神奈川県社会福祉士会

H分科会　神奈川特別分科会

6月8日（日）　9：30～12：30　3階302号

テーマ　成年後見を伝える「演・映・談」
～社会福祉士は、成年後見制度をどのように地域に伝えるか～

【テーマ趣旨】

神奈川では、成年後見制度を地域に根ざしたものとするために、県内各地で啓発・相談事業を実施してきました。地域住民に分かりやすく、正しく伝えるために工夫を凝らした「伝える・表現する」について、共に観て聞いて考えてみませんか。

この分科会は劇場スタイルで、実際に各地で実践した劇・映画を鑑賞して、シンポジウムで議論を深めます。それでは舞台の、はじまり、はじまり・・・。

1. 9：35～10：00　成年後見劇　横浜支部　かもめ座
2. 10：05～10：30　成年後見活用事例ビデオ　西湘支部
3. 10：40～12：20　成年後見シンポジウム
   横浜弁護士会、議員、県外社会福祉協議会職員〔社会福祉士〕
4. 12：20～12：30　おわりに

開　幕

9:30

ようこそ成年後見劇場へ

ナレーター　西田ちゆき　（成年後見事務所 アンカー）

第一幕

9:35

成年後見劇　横浜支部　かもめ座

いつまでもここで暮らしたい
～在宅生活の味方、成年後見制度～

＜出演＞　大友路子・松崎博司・尾形創史・吉井織雅・波多野真弓
中島礼子・柳田かおり・長瀬君子・梅原恵子

＜音響＞　松下圭一　＜美術＞吉田　綾・小園暁子　＜脚本＞尾形淳子

〈休憩〉

第二幕

10:05

成年後見制度活用事例ビデオ　西湘支部　自作自演

どんな時に成年後見制度って必要なの？
～誰もが利用できる身近な制度にするために～

ビデオ　＜脚本＞　溝田　岳　＜発表者＞　和田明子
＜出演＞　本多洋実・神田裕子・西山健一・溝田　岳・木村恭子・和田明子・本杉康行・坂井正志・佐藤陽子　＜編集＞坂井正志

ビデオ2　＜脚本＞　露木とし　＜出演＞　西山健一・露木とし・杉山幸雄・溝田　岳・佐藤良美・＜山崎由恵　＜編集＞坂井正志・青木省悟

別紙4-1　中区区民まつりの模様（2004 年 10 月）

横浜市社会福祉士会、中区区民まつりに初参加！

日時：2004 年 10 月 10 日（日）午前 10：00 から
場所：中区根岸森林公園

高々と横浜市社会福祉士会の旗を揚げ

揃いのジャンバーを着て、皆かっこいい

別紙4-2　中区区民まつりの模様（2004 年 10 月）

社会福祉士「風車はね、こうやって作るのよ」
子ども「お姉さん、上手だね」

どこよりも高く横浜市社会福祉士会の旗

横浜支部歴代支部長のメッセージ

① 在任中、支部長として最もやりがいがあった、または楽しかったこと。

② 在任中、支部長として最も大変だったこと。

③ その他、社会福祉士会の活動で最も印象に残ったこと。

④ 現在の横浜支部または横浜の社会福祉士へのメッセージ。

● 第2代支部長　菅野 善也（在任2008 ～ 2012年度）

① 県内８支部の先陣をきってスタートした支部組織で、県内最大規模の組織として、SNSを駆使した活動の試行を行うと同時に、様々な職種の会員さんたちとの出会いとなる企画を実施できた。

② 前任から引き継いだ基盤を自分なりにアレンジすること。滝頭会館における相談支援運営（震災後）。会員活動を一人でも多くの参加につなげるための仕掛けづくり。支部長を務めることで常にプレッシャーがあり、幹事の皆様に助けられました。

③ 当時の県士会規則にある「支部活動費」について、会員数規模にあわせ、横浜支部だけ特別に増額申請を通していただき、支部内の各連絡会の活動費の捻出に繋げられた。

④ ソーシャルワーカーによるソーシャルアクションを如何に実現させるかを念頭に支部活動を行うことは、新たな発想に繋がります。会員、非会員に向けて知りたい、見たい、参加したい内容のものを発信できる活動を目指してください。

● 第3代支部長　徳田 千春（在任2013 ～ 2014年度）

① 神奈川県社会福祉士会 20 周年という記念イベントがあり、関わらせて頂きました。また、横浜支部の研修として、地域活動をインタビューにより調査分析するという西川ハンナ先生の研修があり、全国大会で発表するため、石川県の金沢に行ったのがとても印象的でした。

② 支部長を決める際、会場の時間内では決まらず、横浜駅地下街の片隅に集まり、しばらくの沈黙の後、私が手を挙げてしまいました。その瞬間、心臓がドキドキしたのを今でも良く覚えています。その後は周りの方のご協力により、なんとか任期を終えることができ、中島さんにバトンタッチすることができました。

③ ここ数年、新型コロナの影響でリモートでの会議や研修が主になっていましたが、この間に得たリモートのスキルと、対面の良さを上手くミックスさせて会の運営をしてもらいたいと思います。

④ 私自身、入会して職場以外のいろいろな方々と出会い、刺激を受けたことがとても価値があると感じています。ソーシャルワークは人と人をつなぐ専門職なので、入会したら積極的に会の活動に参加して頂きたいと思います。また、会としてもその仕組み作りが大切だと感じています。

● 第4代支部長　中島 礼子（在任2015 ～ 2016年度）

① バーベキュー大会や区民まつりなどのイベントで、初めての場所に行ったり、普段会わない人と接したりしたのが、刺激になりました。

② 活動に付随して生じる雑務や会合出席などを、会員の皆さんにお願いするのが大変でした。皆さんもお忙しいので、つい自分が引き受けてしまい、さらに皆さんを遠慮させることになってしまいました。

③ 支部長を退任後、実践研究の一環で、何人かの支部長経験者と幹事にインタビューを行いましたが、互いに感謝と信頼で結びついた、志ある人たちの団体であることが分かり、感動しました。

④ １人１人が、社会福祉士会で活動をしながら、自分の「社会福祉士としてのビジョン」を描いていけたらいいと思います。そうしたビジョンを集めて支部活動に変えていくような、しなやかな横浜支部でありたいと思います。

● 第5代支部長　島田 朝久（在任2017 ～ 2018年度）

① 活動の時間の中に自分がいれたことです。社会福祉士になって成長していく目標はそれぞれだと思いますが、横浜に職能団体があって、そこに加わってくれる人がいると時間の繋ぎ手の実感がありました。

② 支部活動への皆さんの参加です。意欲の高まりと活性化には人が必要ですが、皆さんも忙しく、また社会福祉士は多岐の分野のため求心力づくりが大変でした。

③ こんなこともできるんだと嬉しかったのは、支部の垣根を越えて開催したバーベキュー大会です。繋がりを求める方は多く、語れる場づくりを地域を越えて福祉人が集まれた試みは、枠にとらわれない可能性を感じました。

④「社会福祉士になっていくこと」は積み上げていく足し算によって、いつの間にか自分が目指す社会福祉士像に近づけると思っています。人から学び、自分の枠を広げていける場が支部活動にあると思います。ともに成長していきたいですね。

● 第6代支部長　松下 圭一（在任2019 ～ 2020年度）

① 令和元年 12 月、ハグミィプロジェクトでチャレンジ・ド・コンサートに出場。オリジナル曲がある支部ってすごい!と自分も楽しんだ。令和２年は新型コロナが拡大。行動に制約がある中、皆で創意工夫しながら活動を進めたこと。

② 令和２年に入り新型コロナ感染症が拡大。県士会では国の緊急事態宣言を受け、令和２年度中の集合形態による事業を実施しないと決定。今までの普通が普通ではなくなり、支部運営で早急なオンライン対応が迫られたこと。

③ 令和２年より活動の基本がオンラインとなった。当初ツールの使い方やオンライン会議の進め方などで苦慮したが、幹事の創意工夫の結果、「ZOOM 倫理カフェ」や「オンラインハグミィサロン」を開催することが出来たこと。

④ 支部や支部活動は会員みんなのもの。ぜひ一度は支部の活動に参加して、会の活動を楽しんでください。そして、いつか作り手・担い手になってください。せっかく入会したのですから…勿体ないです。

編集後記

須田さんはじめ支部長さんの行動力と気持ちに触れ、改めて先輩の方々を尊敬し、これから一歩踏み出そうと思うようになりました。感謝感謝です。（江原）

神奈川県社会福祉士会横浜支部（横浜士社会福祉会）設立 20 周年記念誌
発行 2023 年 5 月　神奈川県社会福祉士会横浜支部